

(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	第21期第3回東村山市立公民館運営審議会			
開催日時	令和3年8月30日 午後6:00～午後8:00			
開催場所	中央公民館 レクリエーションルーム			
出席者 及び欠席者	●出席者： (委員) 佐藤会長、小山副会長、鶴田委員、岩浪委員、岩松委員、森山委員、村上委員、永吉委員、角町委員 (市事務局) 公民館長 肥沼 公民館館長補佐 齋藤 事業係長 川嶋 秋津公民館長 田中 富士見公民館長 町田 萩山公民館長 半井 廻田公民館長 山岸 ●欠席者： 杉山委員			
傍聴の可否	可	傍聴不可の場合はその理由	傍聴者数	0
会議次第	1. 会長あいさつ 2. 審議事項 (1) 市民講座等の公民館主催事業に対し30歳代・40歳代の参加を促す方策」について 3. 報告事項 (1) 令和3年度主催事業及び市民講座について (2) その他 6. その他 (1) 次回日程について			
問い合わせ先	教育部公民館 担当者名 齋藤 電話番号 042-395-7511 ファクス番号 042-395-7515			
会 議 経 過				
3. 会長あいさつ 【会長】 こんばんは、前回の会議では、多くのご意見をいただいた。会議録とは別に事務局にて、資料1を作成し分かりやすくまとめてもらった。中間報告に向けてご意見を多くいただきたい。資料の詳細について事務局より説明をお願いする。				

【事務局】

資料1について、前回の会議録から、キーワードを抜粋している。内容として、これまでの講座に関する成果や課題を抽出し4つの項目にまとめた。

今回議論いただく内容に関しては、資料2である。

意見の視点として、人口の減少や少子高齢化社会が進み、地域活動を担っている市民の方々の構成が大きく変化してきた。一方では、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により新しい生活様式への変換が求められ、市民が心豊かに暮らしていくための多様な学びや文化活動を継続していくうえでも、その活動や運営方法にも、大きな変化が求められている。

公民館をはじめとする社会教育や生涯学習活動を取り巻く社会教育環境が大きく変化するなかで、今後、公民館に対して社会から求められるものや、市民講座などを通じて発信すべきテーマや取り組みなどについて、委員各位の専門的なご見地、あるいは日頃より各方面において活動されているご経験などから、多面的な視点でご教授いただきたい。

【館長】

資料1については、前回、委員の皆様よりいただいたご意見を事務局にて、4つの項目に分けている。ご意見いただいた内容と記載内容に相違がないか確認を願いたい。

資料1, 2が重なる部分もあると思うが、様々なご意見をいただきたい。

もうひとつ、行政の最上位計画として「東村山市第5次総合計画」令和3年から10年間、計画として位置付けており、その施策のひとつとして公民館に関わる施策15文化・生涯学習の推進がある。このなかで施策が目指す姿や課題等方向性を事前にお示しさせていただいているので、参考にさせていただきたい。

【会長】

資料1についてご確認いただき、発言内容の漏れや内容の相違がないか確認願いたい。

【A委員】

このまとめた内容についてどのように活用するのか。

【館長】

中間報告や答申をまとめる際に、様々な意見をいただき方向性が示されたという認識である。これが確定ではなく、今後も意見をいただきその都度、見直していく。

【B委員】

このまとめた資料をどのように諮問に活用するのか？また今後もこのようにまとめていくのか2点について伺う。

【館長】

中間報告に向け、過去5年間の市の講座に対し30代・40代の参加を促す方策のテーマのために事業の説明を行い、そこから出たご意見を集約した。その理由として今回は、中間報告に向けて意見をまとめることで、わかりやすく整理をしたものであり、資料として活用願いたい。会議録は、これまでどおり、まとめていく。

【会長】

では、審議事項に入る。子育て世代との関わりのある委員よりご意見をいただく

【C 委員】

勉強会は行っていないが子ども中心の事業を行っていて、保護者も付き添いで来るので、情報交換の場になっている。主に子ども向けの事業を行っている。大人向けの事業はおこなっていない。

【D 委員】

青少対も子ども達为中心となって事業を行っており、大人はサポートとして参加している。しかし現状では新型コロナウイルスの影響によって事業も延期となっている。このような状況でも、常に子供たちが地域でコミュニケーションをとれるよう楽しい時間を過ごせるかを考えている。

【C 委員】

土曜講座でも、親子と参加できる「手芸」や「球技」などを実施し親子で参加しやすい講座も企画しているので、市民講座でも参考にできると思う。

【副会長】

地域でも、担い手が育たない状況である。若いお父さんに参加してもらえるよう努力している。例として、町民運動会に家族で参加してもらい、そこから、様々なコミュニケーションをとり、次回また参加してもらえるよう努力しているが、なかなか担い手不足で育成に苦慮している。人は居るが参加してもらえないという大きな課題がある。

現在は、コロナの影響でほとんど活動が出来ていない状況なので、会報誌を出すことになった。自治会の活動をお知らせする内容であるが、裏面を利用し地元の歴史話を掲載したところ、大変好評であった。地元に興味をもっていただき半年後に成果として出てくれば、今後に繋がってくると考えている。

【E 委員】

ニーズ調査はこれまでに行ったことがあるのか。

【事務局】

市民講座の終了後にアンケート調査を行い参加者の意見をいただいている。

【E 委員】

大学ではコロナ禍で5月からズームで行っていたが、子育てひろば「あそぼう会」を人数等制限して実施した。ここでは、他世代との関わりがある。また大学の近くには新築の住宅が建っており、若い世代の方々が住んでおり、参加者同士が近所だったりして、交流が図れた。学生も一所懸命企画し子供からお年寄りまで参加できるよう準備をした。

【会長】

それは、文化祭のようなものなのか。

【E 委員】

授業の一環として年に3回実施している。

保護者も子どもを連れて参加して、幅広い年齢の方も楽しく参加している。アンケートでは、次回の提案等いただいている。

資料1で親子一緒に参加とあるが、やはり離れて行動したい方もいるので、保育室を活用し大人・子ども向けの講座を実施することが出来るのか等も検討したほうが良いと思う。

【会長】

オンラインも良いが、やはり人と人が触れ合うこともとても大切である。

【館長】

そのイベントの周知方法やPR等のような方に声をかけるなど、市とは違うようなことはあるのか。

【E 委員】

学生が自主的に動いており、様々な方法を用いて周知活動を行っている。

【A 委員】

今後のスケジュールについて確認する。11月までに中間報告を出し、次回は10月までには、中間報告の文章が出来上がっており、形にして11月には提出する。

中身について東村山市第5次総合計画を参考に基本目標2は人の活力の向上なので、この部分を報告書の「はじめ」に記載し東村山市の状況、現状、更に公民館の現状を書いて、なぜ30歳代・40歳代を講座や事業に参加を求めるのかを述べる、というような構成になってくるのかと想定している。

公民館でどのようなことが行われるべきかを考えていく。私達委員も含め職員も一緒に協力してニーズを聞いたりしていくことが大切である。ただ少ないから来てくださいではなく、その後どのように育ってほしいのか、この部分がとても重要である。冒頭に副会長より地域の担い手が居ないとの話しがあったが、公民館ではどうなっているのか、わかった方がよいと思う。

【館長】

事務局の考えでは、市が主催する講座は半年前から講座のテーマやボランティアの方にご協力をいただき企画を作り上げている。20期でご議論をいただいたことから、より早く実現できるように皆様のご見地から様々なご意見をいただき来年のテーマに反映できればと考えている。情報の発信方法など企画するボランティアの方々への参考となるよう皆さんのお力添えをいただきたいと考えている。

【E 委員】

大学主催で行っているイベントのチラシにはQRコードを載せている。若い人は携帯で簡単に申し込めるので、便利である。時代に合わせて工夫も必要である。

【館長】

確かにとても便利ではあるが、行政では環境がなかなか整っていない状況である。いろいろな方法を検討していく。

【F 委員】

では、10月までに我々、委員はどのようにまとめるのか具体的に確認する。

【館長】

今後、ご意見をいただきたいのは、委員の皆様のこれまでのご経験から様々な観点で感じたことをお話しいただきたい。

【E 委員】

30歳代・40歳代の参加を促すことは、当然であるが、やはり広い世代に利用してもらうことが、とても重要だと考える。資料1にあるような内容は、これまで地域で活動している団体も行っている。やはり公民館全体を考えていくことで、30歳代・40歳代が参加しやすい講座がおのずと見えてくるのではないか。この件に関しては、じっくり時間をかけて議論するべきである。

【F 委員】

本日は、どのように議論をすればよいか。

【館長】

今回は、前回のようにフリートークをしていただき、キーワードを集約していき、来年度の講座内容を決める際のベースにしていく。

【G 委員】

現在の30歳代の方は、私の教え子の年代で、ちょうどPHSや携帯が出始めたころで、世の中では、メールのやり取りが、あたりまえのようになった。そう考えると、リアルな繋がりよりもバーチャルな繋がりあたりまえになってきた。その中で、人との繋がりが苦手な人はより、人との接点が少なくなっていると感じる。勉強会や情報交換会等、機会があるとよいと考える。

30歳代の世代は総合的な学習が始まった頃で、自分たちで調べて作り上げていく形にしていくということを大事にし始めた時期である。座って聞いているのではなく、積極的考え行動し、自分たち作り上げていくそのようなことが、キーワードになるのではないか。

【F 委員】

前回配布された資料で30歳代・40歳代が10%とあったが、どのような講座に参加していたのか。

【事務局】

体操関係で、エクササイズなどは若い方の参加者が多い。

【H 委員】

自治会の話であるが、自分も30歳代・40歳代に関わっていた。しかし年配の方達で運営しており、疎外感を感じたことがあった。しかし何度か参加してみたが、周りの同世代の方は参加しなくなったが、役職があったため、会合にも参加した。3回目にやっと、声をかけてもるようになり、輪の中に入りやすくなった。やはり、1回目に参加した時に楽しいと思えば続け、内容が良くても、横との繋がりがなければ、参加しないと思う。初めから、入りやすい環境で参加者同士がコミュニケーションを図れる内容にしていく事がとても大切である。

【B 委員】

今の話は、とても共感できる。私は、学校教育がとても重要だと考える。人間として大切なこと教えていきたい。例えば、今年東京オリンピック・パラリンピックも開催されており、全世界では、コロナウイルスで大変な状況であるそのことを、30歳代・40歳代の方達で話し合うような講座も良いと思う。四中のホリデーネットは創立がから、関わってきた。今話し合っている事など、これまで実践し地域との関わりに大きく貢献してきた。

【副会長】

四中ホリデーネットは、設立当時は地域の方々が大勢学校に集まっていた。近年は、社会情勢の変化によって活動も変化している。中心で活動されている方も固定されており、自治会も地域も同じような状況である。先程の話で、1回目に参加していただいた方に積極的に話しかけて、入りやすい雰囲気を作ることが大切だったと今更ながらだが、感じている。これからは、積極的に話しかけていこうと思っている。昔、私も公民館に関わっていた。その当時の30歳代・40歳代の方々が毎週のように集まり積極的に活動していた。その方達も現在70歳代・80歳代になっている。今の時代は、義務的参加を求めれば、参加もあるが、自主的となれば、中々人は、集まらない。その原因がクリアできれば、光が見えてくるのではないか。東村山には狭山丘陵があり、貯水池や田んぼがあり、緑が豊富で歴史もある。すごくアピール出来るので、広く、多くの人に知ってほしいと常々思っている。

【E 委員】

学生達が、先輩から受け継いできたこととして、誰もが安心して、講座に参加でき、発言できる環境を作っている。これは、代々引き継がれている。このことは、すごく重要である。

【G 委員】

子育てパパ・ママの勉強会、母親の交流が出来る講座は、30歳代・40歳代は求めていると思う。中には、初めの一步が踏み出せない、踏み出したが、馴染めなく、次の参加に繋がらない。いきなり、参加者だけで、コミュニケーションは取りづらいと思うが、これまでの講座では、誰がコーディネーター役であったのか。

【事務局】

講座ボランティアが講師・講座内容について協議している。

【A 委員】

講座に参加した人の繋がり、参加者同士で掲示板等を活用して心配事等を話し合う時間を設ける等、やり方や方法は様々であるが、どのように参加しやすい雰囲気を作り出すのかが、大切なことだと考える。

【F 委員】

例えば、講座後にでも、参加者同士で自己紹介等、身近な会話する場を設定できると、そこから、グループになるきっかけになるのではないか。近年、ネットの中で交流を求める人が増えていると感じている。また、コロナの影響により直接会って話をする交流が減っているように感じている。

【G 委員】

現在の40歳代の方達が大学生の時代には、様々な交流を行う機会や集まる場所もあったが、ちょうどその時代を境に4人くらいで気軽に交流できる施設も減ってきている。

【副会長】

最近では、会議後にコミュニケーションをとろうとしても、なかなかうまくいかない時代である。特に世の中の家庭環境も昔とは違い。男性も育児や家事に積極的なりこれまでのように、夜や休日の活動を行うにあたり、家族の理解を得られるような場を作る必要がある。私の家内も「ころころの森」で活動しており、父親も積極的に参加している。このような活動を地区館でも実施できると人が集まってくるのではないか。

【C 委員】

子どもの頃、公民館は行き慣れた場所であったが、大人になったら、中々行かなくなった。子育てをしている頃は、児童館に行っても、公民館には行かなかった。なぜかという、子ども向けに行ける場所でなかったような気がしている。もっと、大人や親子で学習出来ることをアピール出来ると良いと思う。講座の内容が良ければ、その結果、リピーターとなって、口コミで広がるのが理想である。

【D 委員】

公民館の情報が市民になかなか届いていないのだと思う。市報やホームページに掲載はしていると思うが、忙しい人はわざわざ、自分からホームページを見ない。自分は、公民館には、子ども達の発表会にしか行っていなかった。その際にチラシを配布し周知する事も大切なことだと思う。

【A 委員】

地域に活かさないかという意見があったが、お二人の地域で活動されている委員の話を知って、東村山市はPTAに支えられていると感じた。地域に活かせるのは、公の施設の公民館の出来る場所だと思う。1回目に参加して楽しいと思われることは、何かしらの仕掛けを作ることが出来るのは、公民館だと思う。人を集める事も大切であるが、その先にあるのは、地域で学習したことを還元させることが、とても重要である。講座で人気のあるエクササイズなどは興味があってもその先がなければ、リピーターには、ならないと思う。講座に出て、誰々と会って会話を楽しんだりすることで、次も参加しようという気持ちになる。シティセールス課でプロに学ぶ「誰でも撮れる、引き付けられる写真を撮るコツ」講座を募集している。開催を土曜日の10時から11時半の時間で募集しているこのような内容は、行きたいと思わせる内容だと思う。近隣市では、まちを楽しむ活動を始めたり、地域と繋がる事業を考えたりと人を募集している。SNSで発信して地域と繋がるなど、そこから各個人で学んで地域に広げることが理想である。ホリデーネットの件は、現在支えている方々が当時30歳代・40歳代に作り上げてきているので、今の30歳代・40歳代の人たちが、参加してくれると今後良い方向に向かうのではないか。

【副会長】

私たちが関わっていた時の方が、70歳代・80歳代になっている。10年後。20年後を考えた時に公民館を支えてくれる人材が居るのか不安はある。

【A 委員】

講座ボランティアと一緒になにか出来るが良い。また後継者を育てることも重要である。

【副会長】

全講座を30歳代・40歳代の対象でなくてもよい。ひとつでも若い人が興味を抱くような講座を企画していく事で広まっていくと思う。

【A 委員】

例えば、コロナをテーマに講座を開くのも良いと思う。構成など難しい部分もあるが、参加者にコロナについてどう考えてもらい。それぞれの考えを話し合ってもらい、全ての意見から繋がりを見つけていくといったことも良いと思う。
また、コロナ禍の中で、子育ての悩みを相談するといった内容もよい。

【B 委員】

資料2に記載されていることは、とても重要で一つでも行えたら、東村山市の公民館も評価されると思う。

【A 委員】

今、みんなが、抱えている生活の課題を学習の課題として取り上げる事は公民館として役割である。その中で子育て中の悩み等を打ち明けられる会が開催されると素晴らしいと思う。

【会長】

そろそろ、時間になるので、このへんで審議を終了する。

【館長】

ご審議ありがとうございました。振り返ると、リピーターと話があったが、公民館は講座を開き、横の繋がりをもって、サークル活動に繋げたり、新たなグループを立ち上げたりと大きなスタートあると考えると、1回目の参加時が大切で、2回目の参加に繋げる大切さを改めて感じた。またスキルアップなど、人生100年時代といわれており、これまで現役の中で、培った経験など資格をさらにスキルアップしていただき、地域に貢献していただきたい。リカレント教育など本日頂いた意見とも結びつくと思う。本日頂いた意見を参考にまとめ次に繋げていきたいと思う。

【事務局】

資料に沿って説明する。網掛けになっている事業は、終了している。市民講座については、1事業のみ実施、理由として緊急事態宣言による影響である。「写真の撮り方セミナー」会長に講師になっていただき、秋津公民館で開催した。前半は講義で後半は、実践して実施した。本来であれば、たくさんの方に参加してほしいところであるが、コロナ禍であるため、定員をかなり制限して実施した。次に単発講座「夏休み子ども工作教室」は8月17日に中央公民館で開催した。この事業も2時間の限定で実施し

だったが、みんな楽しんでいた。ホール自主事業は、9月18日に開催予定であるが、状況によっては、中止も含めた検討をしている、現在100名程度の予約が入っているが、中止の場合は、全員への連絡、ホームページで周知を行う予定。かめのこ学級はこれまで2回しか実施できていない。今後の予定についても未定である。

次に土曜寄席は秋津公民館で1回開催し43名の参加があった。9月は富士見公民館で開催を予定しているが、状況によっては中止の可能性もある。フレッシュコンサートは、8月7日にオーディションを実施し、10月3日が本番の予定。オーディションには学生11組、新人14組が参加。合格は学生3組、新人5組となった。最後に白梅学園大学共同事業で「認知症あんしん生活実践塾」が明日始まる。

【A 委員】

中止となった場合に、予約をした方に連絡をするのか。

【事務局】

電話連絡と、ホームページで周知する。

【会長】

では、本日はこれで終了とする。

その他

(1) 次回日程について

【会長】

次回は10月25日月曜日、18時より中央公民館にて開催する。